

リベラル21

私たちは護憲・軍縮・共生を掲げてインターネット上に市民のメディア、リベラル21を創った。

2013.01.10 革新政党の不振と衰退は目を覆うばかりだ、総選挙の総括なき敗北は政党消滅への道に通じる、(ハシズムの分析、その42)

～関西から(85)～

広原盛明(都市計画・まちづくり研究者)

昨年の総選挙以来、「リベラル21」同人の舌鋒が日増しに鋭さを増している。論旨は各人各様だが、革新勢力の収縮と後退が露わになるなかで、戦後民主主義を担ってきたリベラリストたちがいまなお不屈の闘志と強さを発揮していることは心強い。私自身もほぼ同世代に属する一員なので、これに負けず劣らず論陣を張りたいところだが、今度ばかりは少し落ち込んでしまっかなか筆が進まない。

なぜかとも気が重いのか。理由は2つある。ひとつは革新政党(社民党、共産党)の得票数の落ち込みが並み大抵のものではなく(私自身はもう少し頑張れるものと期待していた)、歴史的な惨敗・大敗を喫したという厳しい選挙結果に圧倒されたからだ。もうひとつは、にもかかわらず選挙総括が現実を直視したものになっておらず、その体質に絶望に近い気持ちを抱かざるを得ないからだ。

選挙結果は事実そのものだから認める他はない(いまさらとやかく言っても仕方がない)。だが、選挙総括はこのような事態を招いた原因や背景を究明し、そこから如何にして立ち直るかという今後の方針を見出す作業だから絶対にゆるがせにできない。選挙総括にはいわば政党の未来がかかっているのであり、キチンとした総括ができない政党には「未来がない」と言っても過言ではないからである。

総選挙後の世間の大方の関心は、民主党の壊滅と自民党の圧勝に集中した。確かに民主党の惨敗ぶりは凄まじかった。前回総選挙(2009年、比例区)の得票数2984万票の2/3に当たる2021万票を失い、議席数は308→57(比例87→30、小選挙区221→27)へ激減した。これに対して自民党は前回1881万票から219万票(1割強)を失ったものの、議席数は119→294(比例55→57、小選挙区64→237)と激増した。

一方、社民党や共産党の敗北はあまり注目されなかった。こちらの方はもはや政権はおろか政局にも影響することが少ない「周辺部分」だと思われるのか、まとまった論評も出なかった。だが、社民党が前回301万票の過半数152万票を失い、共産党も前回494万票の1/4に当たる125万票を失ったことは、少数政党とはいえ両党が革新政党の中心的存在であるだけに、日本の革新勢力にとっては大きな痛手であることは間違いない。

その結果、社民党得票数は301万票(4.3%)から142万票(2.4%)へ、議席数は7→2(比例4→1、小選挙区3→1)へと激減し、共産党もまた494万票(7.0%)から369万票(6.2%)へ、議席数は9→8(比例9→8、小選挙区0→0)へと後退した。

この数字の意味するところは深刻だ。一言で言って、社民党は“解党的惨敗”、共産党はその一歩手前だと言ってよい。現行の選挙制度では得票率が4～5%を割ってくると、小選挙区はもとより比例代表区の議席数が極端に少なくなるという特徴がある。今回の社民党得票率はいわばその“臨界点”を超えてしまったのであり、共産党はそれに近づいているといえるからだ。

得票率4～5%の“臨界点”の次の段階には、政党自体が消滅する得票率2%という“沸点”がある。

0248592

プロフィール



護憲・軍縮・共生

Author:tiger21

リベラル21について

Amazon商品一覧【新着順】



ジャーナリストの現場—もの書きをめざす人へ



宋家王朝—中国の富と権力を支配した一族の物語(上)
(岩波現代文庫) (岩波現代文庫 社会 196)



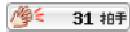
宋家王朝—中国の富と権力を支配した一族の物語(下)
(岩波現代文庫) (岩波現代文庫 社会 197)

周知のごとく、政党助成法における政党要件(第2条)は、「衆参国会議員5人以上を有する政治団体」あるいは「直近の国政選挙で有効投票の2/100以上を得た政治団体」となっている。この要件を満たさなければ政党として認められず、したがって政党交付金も受け取れない。

社民党の参院議員は目下4人だ。しかし今年7月の参院選挙で任期切れを迎える議員が2人いるので、もし議席ゼロになれば衆院2人、参院2人と合わせても政党要件の5人を割ることになる。勿論、得票率を2%以上確保すれば話は別だが、いまの社民党にそれだけの集票能力を期待することは相当無理がある。このままでいくと社民党得票率は2%を割り、議席ゼロになる可能性も否定できない。

政治資金の圧倒的部分を政党交付金に依存している社民党にとって、政党交付金が無くなることは文字通り死活問題に直結する。政党交付金が無くなれば足腰の弱い社民党の政党活動は決定的打撃を受け、党を支える活動家の人件費や行動費も支給できなくなり、事務所も閉鎖せざるを得ない。いわば政党としての実体が無くなるわけだから、次回の総選挙をまともに戦えなくなることは眼に見えている。今回辛うじて当選した2人の衆院議員が、次回も議席を守る保証などどこにもないのである。

こんな危機存亡の事態に直面した社民党がいったいどんな選挙総括をしているのだろうか。次はそのことに触れたい。



Category (政治) | Comment (0) | TrackBack (1) | ▲

<< マルクス先生さようなら、熱烈歓迎孔子さま | Home | 改憲路線の安倍政権に強い危機感と警戒心 >>

Comment

Name:

Mail:

URL:

Comment:

Pass:

Secret: 管理人にだけ表示を許可する

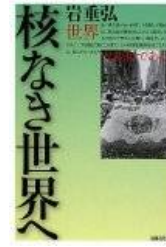
TrackBack

TrackBackURL → <http://lib21.blog96.fc2.com/tb.php/2237-2eb509b7>

管理人の承認後に表示されます

2013/01/12 Sat 09:43

| [Home](#) |



[核なき世界へ](#)



[台頭中国の対外関係 \(学習院大学東洋文化研究叢書\)](#)



[原田流 ハングルノート—超入門 読め! 話せ!](#)

最近の記事

- 護憲・反原発勢力は選挙協力を——共産党に残された道 (04/07)
- 国際支援で経済苦境を突破できるか (04/06)
- イラク戦争の検証と沖縄 (04/05)
- 「信長を英雄視しない」と宣言した歴史書に多い問題点 (04/04)
- 日本語、こんな言い方・書き方ってあるのかな? (04/03)
- はたして「1票の格差」は悪なのか。 (04/02)
- 原爆の怖さと被爆体験を語り尽くす (04/01)
- 本日休載 (03/31)
- 原因と結果 (03/30)
- 山里にも春がきた (03/29)

最近のコメント

コメントは承認制です。すべてが掲載されるとは限りません。
さすらい日乗:映画作家の想像力—黒澤明の原発観 (04/05)
バッジ@ネオ・トロツキスト: 護憲第3極の形成のためには、“国共合作”を目指すくらいの方針大転換が必要だ、革新政党の不振と衰退は目を覆うばかりだ(11)

(03/28)

バッジ@ネオ・トロツキスト: 社民党は次期参院選で政党要件を失って消滅するかもしれない、革新政党の不振と衰退は目を覆うばかりだ(8) (03/28)

バッジ@ネオ・トロツキスト: 護憲第3極の形成のためには、“国共合作”を目指すくらいの方針大転換が必要だ、革新政党の不振と衰退は目を覆うばかりだ(11) (03/27)

ヤング虎の子: 社民党は次期参院選で政党要件を失って消滅するかもしれない、革新政党の不振と衰退は目を覆うばかりだ(8) (03/27)

(03/27)

院生: 緩和マネーが押し上げる株価 (03/26)

院生: 護憲第3極の形成のためには、“国共合作”を目指すくらいの方針大転換が必要だ、革新政党の不振と衰退は目を覆うばかりだ(11) (03/26)

最近のトラックバック

トラックバックの扱いはコメントに準じます。

雪村総也の不安: 核兵器廃絶へアメリカ表明 (04/07)

ジロッカーの世界征服計画: 第62回 日本アンデパンダン展 (03/16)

再出発日記: 金子家のこと、あるいはベトナムの写真 (02/11)

ブログニュース: 宇宙基本法が施行、1年後メドに内閣府「宇宙局」設置へ (08/27)

架空政党: 進歩民主党: 沖縄施策 (04/19)

オープン・デモクラシー: 汎チベット民族主義の時代の到来 (04/18)

きまぐれな日々: チベット騒乱の報道を受けて、中国について思うこと (03/18)

カテゴリー

福祉 (10)

書評 (183)

エッセイ (176)

映画・演劇 (67)

環境 (34)

メディア (45)

未分類 (26)

社会 (167)

政治 (356)

経済 (127)

絵画 (56)

詩 (31)

法律 (5)

[国際 \(658\)](#)
[写真エッセイ \(77\)](#)
[ことば・言語 \(98\)](#)
[メディア時評 \(1\)](#)
[地方自治、地方政治 \(50\)](#)
[言語 \(4\)](#)
[歴史 \(10\)](#)
[短信 \(5\)](#)

月別アーカイブ

[2013年04月 \(7\)](#)
[2013年03月 \(29\)](#)
[2013年02月 \(29\)](#)
[2013年01月 \(32\)](#)
[2012年12月 \(32\)](#)
[2012年11月 \(32\)](#)
[2012年10月 \(31\)](#)
[2012年09月 \(30\)](#)
[2012年08月 \(31\)](#)
[2012年07月 \(30\)](#)
[2012年06月 \(30\)](#)
[2012年05月 \(31\)](#)
[2012年04月 \(31\)](#)
[2012年03月 \(31\)](#)
[2012年02月 \(29\)](#)
[2012年01月 \(30\)](#)
[2011年12月 \(33\)](#)
[2011年11月 \(30\)](#)
[2011年10月 \(31\)](#)
[2011年09月 \(31\)](#)
[2011年08月 \(33\)](#)
[2011年07月 \(35\)](#)
[2011年06月 \(31\)](#)
[2011年05月 \(34\)](#)
[2011年04月 \(34\)](#)
[2011年03月 \(39\)](#)
[2011年02月 \(30\)](#)
[2011年01月 \(31\)](#)
[2010年12月 \(32\)](#)
[2010年11月 \(30\)](#)
[2010年10月 \(31\)](#)
[2010年09月 \(32\)](#)
[2010年08月 \(33\)](#)
[2010年07月 \(34\)](#)
[2010年06月 \(30\)](#)
[2010年05月 \(31\)](#)
[2010年04月 \(30\)](#)
[2010年03月 \(31\)](#)
[2010年02月 \(28\)](#)
[2010年01月 \(31\)](#)
[2009年12月 \(31\)](#)
[2009年11月 \(30\)](#)
[2009年10月 \(31\)](#)
[2009年09月 \(32\)](#)
[2009年08月 \(38\)](#)
[2009年07月 \(34\)](#)
[2009年06月 \(30\)](#)
[2009年05月 \(31\)](#)
[2009年04月 \(30\)](#)
[2009年03月 \(31\)](#)
[2009年02月 \(29\)](#)
[2009年01月 \(34\)](#)

- [2008年12月 \(33\)](#)
- [2008年11月 \(30\)](#)
- [2008年10月 \(32\)](#)
- [2008年09月 \(32\)](#)
- [2008年08月 \(31\)](#)
- [2008年07月 \(31\)](#)
- [2008年06月 \(30\)](#)
- [2008年05月 \(31\)](#)
- [2008年04月 \(30\)](#)
- [2008年03月 \(33\)](#)
- [2008年02月 \(25\)](#)
- [2008年01月 \(33\)](#)
- [2007年12月 \(27\)](#)
- [2007年11月 \(23\)](#)
- [2007年10月 \(20\)](#)
- [2007年09月 \(19\)](#)
- [2007年08月 \(23\)](#)
- [2007年07月 \(19\)](#)
- [2007年06月 \(22\)](#)
- [2007年05月 \(23\)](#)
- [2007年04月 \(17\)](#)
- [2007年03月 \(10\)](#)

プロとも申請フォーム

[この人とプロともになる](#)

ブログ内検索

RSSフィード

- [最新記事のRSS](#)
- [最新コメントのRSS](#)
- [最新トラックバックのRSS](#)

リンク

- [自由のための「不定期便」](#)
- [安原和雄の仏教経済塾](#)
- [「ユニオン」と「労働ニュース」アーカイブ](#)
- [人生の奥付ROAD TO THE EXPERIENCE OF KOREA](#)
- [「老いの一筆」](#)
- [長瀬陸のホームページ](#)
- [管理者ページ](#)
- [このブログをリンクに追加する](#)